

満60歳の年の瀬を迎えて

もう年の瀬か？この間、新年を迎えたばかりであったが？時の経つのは本当に早いものである。時の流れは、年齢が上がるにつれ早く感じるそうである。その早さの感覚は、なんと年齢の二乗の速さだという。つまり、1歳の子供は $1 \times 1 = 1$ の早さ、2歳の子供は $2 \times 2 = 4$ の早さ、60歳の私は $60 \times 60 = 3600$ の早さということだ！

時の経つのがこれだけ早いと、焦りを感じるのは私だけだろうか？今年還暦の60歳になったというのに、この人生でまだ何事かを成していない。平均寿命から余命を推測すると、残りは20年あればいい方である。この年齢から何事かを成すのは容易ではないが、日本には凄い先人たちが沢山いる。たとえば、江戸時代に全国を歩き日本地図を作った伊能忠敬は、下総の佐原（現千葉県香取市）で、事業家として成功し49歳で隠居したが、50歳のときに江戸へ出て天文・暦学を学び始め、その修業中にきっかけをつかみ地図作りを始めた。まさに「五十の手習い」の諺を地で行くかの如くである。その後、17年をかけて日本全土を実地測量し、初めての実測にもかかわらず日本全図の作成という大仕事を成し遂げた。隠居後に在職中を遥かに上回る大仕事を達成したことが、今の世の中の関心を呼んで、静かなブームとなっている。1700年代の50歳と今の50歳では大きく違う事を思うと、彼は本当にスーパーマンである。

また、魔法のラーメンを作った日清食品の安藤百福は、61才の時に苦勞をして作った「カップヌードル」の発売に成功している。そして、NHK朝の連続テレビ小説に、「まんぷく」という題名で主人公となることが発表された。2018年10月1日放送開始予定である。安藤の銅像は、インスタントラーメン発明記念館の正面に建てられており、彼の功績を称える碑文は、中曾根元首相の手によって書かれたものである。そこには、『安藤百福翁は勤勉力行、不屈不撓の人である。1910（明治43）年に生を受け、幼くして両親を無くし、自立独立の道を歩む。敗戦後、無一文の苦境から立ち上がり、困難を克服して世界初の即席麺「チキンラーメン」を開発、次いで世界初のカップ麺「カップヌードル」を発明、日本の食生活に一大革命を起こす。百福翁の蒔いた一粒の種が国境を越えて世界に伝播し、ついに総需要九百億食を超える世界食となる（後略）』と記されているそうだ。

人間は、年齢ではない。情熱さえあれば、まだまだいくらでも成し遂げられる。私も、伊能翁や安藤翁に倣い、残りの人生を明和町に捧げようではないか！じっと上を見て、目標に向かってひたすらに努力をしていると、ある日スーッと霧が晴れて大功をなす。そんな夢を見てこれからも頑張るのみである。

平成29年12月16日

明和町長 冨塚もとすけ